

都市型モダン仏壇を充実させる

丸屋仏壇店札幌店（札幌市）

丸屋仏壇店の丸屋輝夫社長の笑顔はとも印象的だ。きつこの笑顔がたぐさんのお客様の心をなごませるのだろう。丸屋仏壇店の元々の発祥地は富山県氷見市。現

在でも氷見市には丸屋仏壇店の工場があるが、戦後昭和三十年代まで丸屋仏壇店は氷見で作る金仏壇を主に北海道に卸していた。この氷見で生まれ

た丸屋三兄弟のうち三男の丸屋隆夫氏が帯広に出店。昭和四十五年には長男の憲一氏が札幌から比較的近い苫小牧市に出店。出店にあたっては、長男憲一氏と三男隆夫氏が苫小牧で共に働くこと

になり、帯広店は従兄に任せることになった。次年の勝男氏は昭和四十六年に千歳に出店している。

丸屋社長の言葉通り、一階は都市型モダン仏壇のみの展示だが、線香、ロソク、位牌なども展示する。位牌は受注伝票が数多くあり、お客様の多さを物語っている。

さて、冒頭で紹介した丸屋輝夫社長は憲一氏の長男（昭和三十五年生まれ）であり札幌厚別店を、苫小牧店は隆夫氏の長男である丸屋彰伸専務（昭和三十九年）が運営し、この二人が丸屋仏壇店の両輪となっている。

「仏壇の販売本数そのものはあまり落ちていないのですが、以前なら成約の可能性があったお悔やみ営業は非常に厳しくなっています」と丸屋社長は語る。

丸屋社長自身も実は大卒を卒業してから祖先の地である氷見で三年間、箔押しや組立の修業をしている。

ここ数年で大変だったのはメーカーから商品値上げ通知が相次いだことで、お客様の嗜好の変化もあり商品の構成の見直しを迫られて来た。

「私が北海道に戻ってきたのは昭和六十年です。その後、市場の動向を見据えて札幌に出店したのは平成十二年のことです。店舗は元々複合店舗でしたが、たまたま空いており、ここなら仏壇を販売できると出店しました。建物は三階建てで、当初は一階を唐木仏壇、二階を金仏壇の展示場として使っていましたが、現在では一階は全て都市型モダン仏壇の展示となり、二階で唐木仏壇と金

仏壇の展示を行っています」

丸屋社長の言葉通り、一階は都市型モダン仏壇のみの展示だが、線香、ロソク、位牌なども展示する。位牌は受注伝票が数多くあり、お客様の多さを物語っている。

「仏壇の販売本数そのものはあまり落ちていないのですが、以前なら成約の可能性があったお悔やみ営業は非常に厳しくなっています」と丸屋社長は語る。

丸屋社長自身も実は大卒を卒業してから祖先の地である氷見で三年間、箔押しや組立の修業をしている。

ここ数年で大変だったのはメーカーから商品値上げ通知が相次いだことで、お客様の嗜好の変化もあり商品の構成の見直しを迫られて来た。

「私が北海道に戻ってきたのは昭和六十年です。その後、市場の動向を見据えて札幌に出店したのは平成十二年のことです。店舗は元々複合店舗でしたが、たまたま空いており、ここなら仏壇を販売できると出店しました。建物は三階建てで、当初は一階を唐木仏壇、二階を金仏壇の展示場として使っていましたが、現在では一階は全て都市型モダン仏壇の展示となり、二階で唐木仏壇と金

仏壇の展示を行っています」

丸屋社長の言葉通り、一階は都市型モダン仏壇のみの展示だが、線香、ロソク、位牌なども展示する。位牌は受注伝票が数多くあり、お客様の多さを物語っている。

「仏壇の販売本数そのものはあまり落ちていないのですが、以前なら成約の可能性があったお悔やみ営業は非常に厳しくなっています」と丸屋社長は語る。



丸屋仏壇店 丸屋輝夫社長
お客様への温もりのある対応を常に心がけている



丸屋仏壇店 札幌店



丸屋仏壇店1階
メインは都市型モダン仏壇の展示
札幌ならではの箱宮も揃える



丸屋仏壇店2階
金仏壇・唐木仏壇を豊富に揃える